

とやま未来創造青年プロジェクトチームの施策提言について（概要）

○第1グループ <テーマ：「富山県」というブランドイメージの確立・統一化>

「富山県」の共通テーマを設定するとともに、ブランドイメージを統一したPRを実施。合わせて、そのブランドイメージ形成に寄与するよう、仕事・くらし・教育の各側面から多様性や専門性の向上に寄与する施策を実施。

（具体的な取組等）

- ・「PR課」の設置…デザインに精通した職員等を配置、県のブランドイメージ構築、統一性あるPRを実施
- ・会社員、学生、フリーランス、経営者等からなる青年アドバイザーチームを設置
- ・インターンの充実（新卒&社会人）＋「働き方」教育
- ・フリーランス、パラレルワーカー（副業・兼業等）など、多様な働き方の普及・浸透
- ・社会人が専門スキルを学べる大学・大学院の強化
- ・家事代行サービスの普及
- ・移住サポーター窓口の設置

○第2グループ <テーマ：とやま Revolutionaly Education Valley>

富山県内各地域に、25歳～34歳（特に、第二新卒世代&第一子子育て世代の女性）をメインターゲットとする「学び直し」「おとなの学び」「ひとつづくり」の「Labo」を創設し、これを統括する協議会（TOYAMA Education Labo（TEL））を発足させる（将来的な一般社団法人化も視野）。

⇒富山を「エデュケーションバレー」として国内外へ発信

（具体的な取組等）

- ・各Laboが実施するツーリズム・企業インターンシップ、義務教育、高等教育、大学教育、ワークショップ等の取組みを有機的に繋ぎ、富山県全体が学び直しのコンテンツ集積地になるようファシリテート。
- ・既存Labo（朝日町、南砺市等）の発信、新規Laboの立ち上げコンサルティング
- ・各Labo合同の学びコンテンツの企画と運営
- ・各Laboの活動や、そのエリアのヒト・モノ・コトを発信するWebマガジンの制作
- ・多拠点生活のプロデュース
- ・他都道府县市町村のLabo組織との定期的な交流やコンペ企画

○第3グループ<テーマ：TOYAMA Executive Tourism>

富山の自然をフィールドに、国内外企業向け（役員クラス）のマインドフルネス研修プログラムを開発・提供し、ビジネス化・自立化。観光と第1次産業を結び付け、関係人口の創出、インバウンド観光客の誘致、観光従事者（職人）の増、地域資源の活用・保全・魅力発信、1次産業従事者の確保等を狙う。

（具体的な取組等）

- ・国内外の専門家（脳科学など）の最先端の知見を取り入れ、富山の四季折々の地域資源をフィールドとして結び付けたプログラムを民間主導で開発。
- ・R2年度は一般社団法人インバウンド観光総研（慶応大学内）とも連携し、国内外の脳科学・心理学等の専門家を本県に招聘するなどして、コンテンツを民間主導で構築。

⇒コンテンツの構築、専門家の招聘、企業役員の誘致には、コンテンツ運営母体として、PTメンバーを中心とした新法人の設立も検討。

〔将来的には、上記プログラムの収益の一部を福祉事業（ex. ストレス不調を感じる方向け）として社会に還元することも想定〕